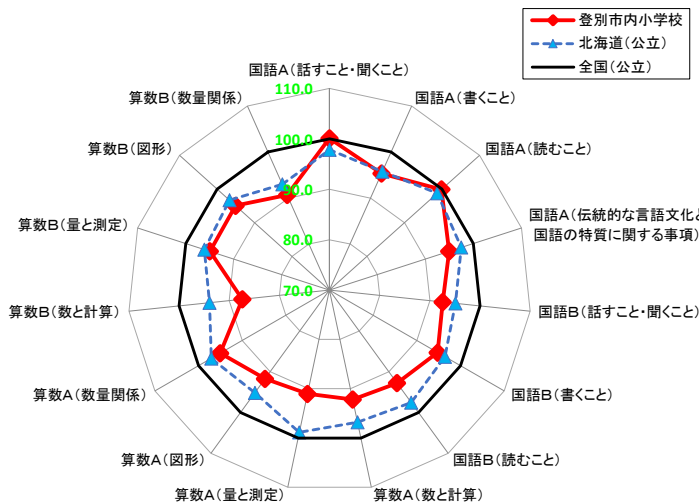


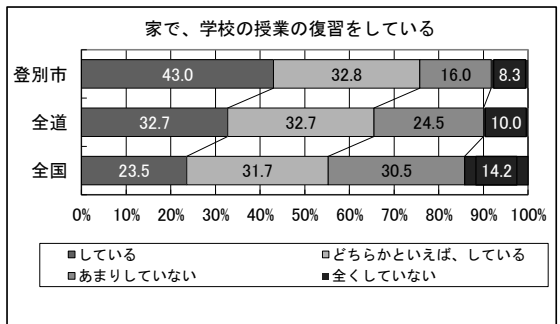
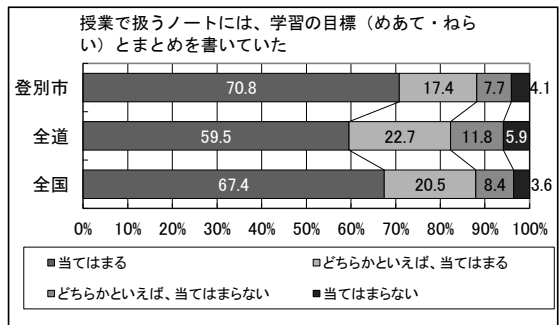
登別市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:8、児童数:363名)

【教科全体の状況】

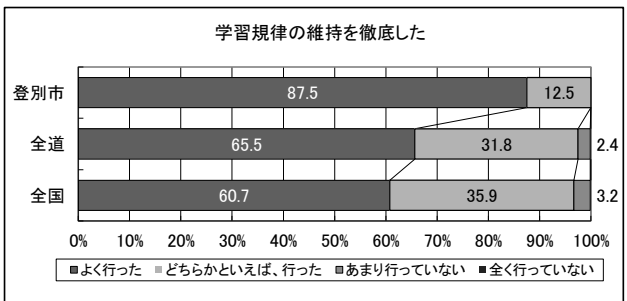
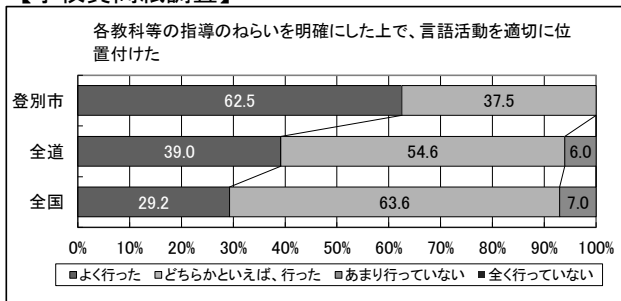
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

項目	分析内容
教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての教科において、全道の平均正答率を下回っている。 ○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」で、全国を上回っている。 ○ 算数Bでは、「図形」で、全国平均に最も近くなっている。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 ○ 「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「学習規律の維持を徹底した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

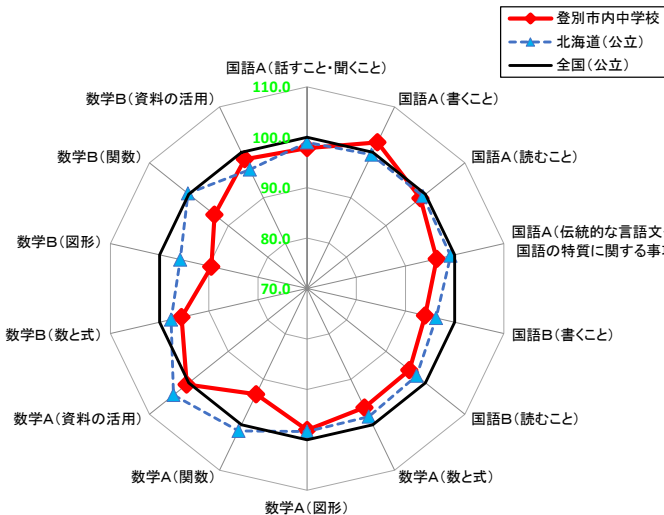
【登別市の学力向上策】

- ◎ 市独自に学習指導員を配置し、登別版チャレンジドリルの作成や各校の学力対策の支援
- ◎ 放課後や長期休業中の学習サポートの充実に向けた教材の作成や配布、地域住民による学習支援
- ◎ 学校図書館司書の配置や市立図書館と学校図書担当者の相互連携による読書環境の充実
- ◎ 退職教員等外部人材活用事業を活用した放課後学習会の実施

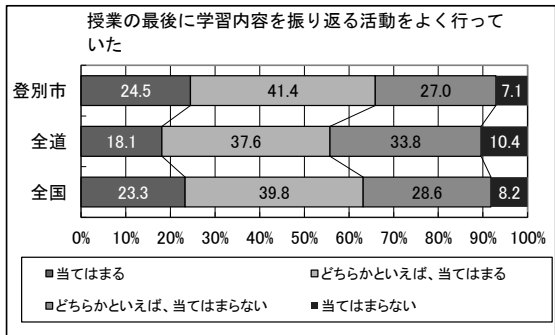
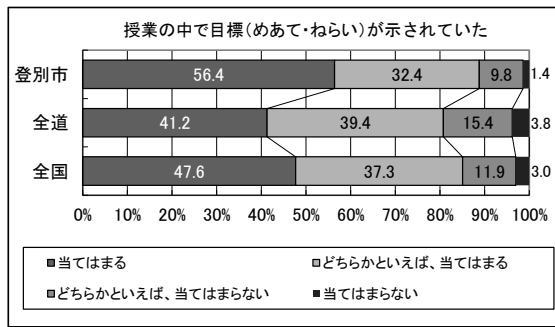
■登別市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:5、生徒数:366名)

【教科全体の状況】

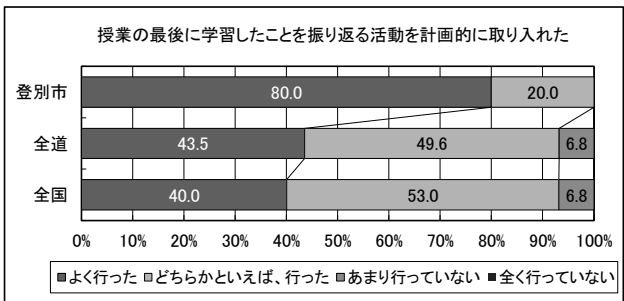
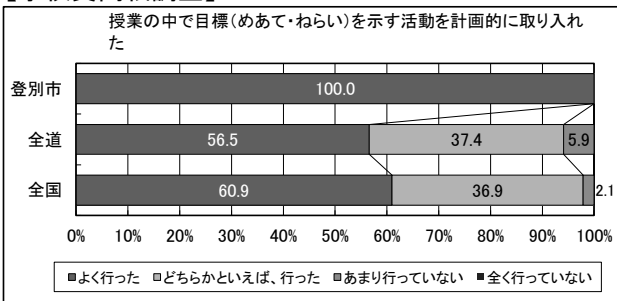
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての教科において、全道の平均正答率を下回っている。 ○ 国語Aでは、「書くこと」で、全国を上回っている。 ○ 数学Aでは、「資料の活用」で、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市全体で、授業における目標の提示や振り返りの位置付けについて共通理解を図り、各学校で取り組んだことにより、生徒質問紙、学校質問紙ともに、全国を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校の授業において、導入で目標を示すなどして、生徒に学習の見通しをもたせ、終末で学習内容を振り返る活動を位置付けたことにより、学習内容の定着が図られ、国語A「書くこと」及び数学A「資料の活用」で全国を上回ることにつながったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての学校が、「授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れた」と回答している。 ○ 「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

【登別市の学力向上策】

- ◎ 市独自に学習指導員を配置し、登別版チャレンジドリルの作成や各校の学力対策の支援
- ◎ 放課後や長期休業中の学習サポートの充実に向けた教材の作成や配布、地域住民による学習支援
- ◎ 学校図書館司書の配置や市立図書館と学校図書担当者の相互連携による読書環境の充実
- ◎ 退職教員等外部人材活用事業を活用した放課後学習会の実施